

# セグロウリミバエの 緊急防除について

～家庭菜園でのウリ科野菜の栽培自粛のお願い～

## セグロウリミバエについて

セグロウリミバエは、中国、台湾、インド、東南アジア等に広く分布し、主にウリ科植物の生果実を加害することが知られています。主な寄主はウリ科（ゴーヤー、ヘチマ、カボチャ、トウガンなど）ですが、海外では、トウガラシ、トマト、グアバ、インゲン、パパイアなどにも寄生することが報告されています。

令和6年3月に、沖縄県が名護市に設置しているミカンコミバエ、ウリミバエの侵入警戒調査用トラップにセグロウリミバエが誘殺されました。

## 4月14日から緊急防除が開始

その後も沖縄本島北部及び中部地域でトラップ誘殺が継続して確認されたことから、本虫の根絶及び他地域へのまん延を防止するため、令和7年4月14日から植物防疫法に基づくセグロウリミバエの緊急防除が開始されました。緊急防除では、沖縄本島外への対象植物（ウリ科野菜等）の移動の制限、農林水産省、沖縄総合事務局、沖縄県、市町村及び関係機関が連携したテックス板（誘引剤と殺虫剤を染み込ませた木片）

の設置等による同虫の防除を行っています。

## ご協力をお願いします

これまで（令和7年5月末時点）、本島北部及び中部を中心に17市町村でトラップ誘殺が確認されています。誘殺されたトラップ周辺の寄主果実調査を実施した結果、これまでに12市町村で寄生果が確認されています。本虫が寄生した果実は、主に家庭菜園や収穫後に果実が放置された畑から発見されています。本虫のまん延防止のため、沖縄本島内の家庭菜園では、できるだけウリ科野菜の栽培を控えるようお願いしております。

引き続き、関係機関が連携して防除対策を実施しておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

※セグロウリミバエに関する情報は、農林水産省植物防疫所及び沖縄県のホームページをご確認ください。

植物防疫所HP



沖縄県HP



お問合せ先

農林水産部 消費・安全課  
☎098-866-1672



セグロウリミバエ（体長約8～9mm）



設置したテックス板